

「風水害対策訓練に参加して」

第三分団 本部 小泉 守

令和6年9月8日、菊名池公園プールにおいて、大規模自然災害を想定した「風水害対策訓練」が行われました。本年より全分団参加となり、初めて参加しました。まず水難者を救助する際の注意点が示されました。安全管理として1. 自己の安全、2. まわりの人の安全、3. 要救助者の安全を考える。慌てて水の中に飛び込まない。これが第一ということでした。ではどのように救助するか。

まず陸上から、浮くもの（空のペットボトル等）、ロープ、棒などを利用し自らは水の中に入らない。水際でも要救助者に引き込まれる場合もあるので注意を要することでした。次に救命ゴムボート（第一分団、第五分団に配備されている）を使用した訓練を行いゴムボートの操作法、要救助者の引き揚げ方等の説明がありました。

その他としてプールの両サイドからロープを使用し、流れてくる要救助者を救出する方法、救命胴衣をつけて着衣水泳訓練なども体験しました。着衣のまま水の中に入る経験がほとんどないため水の抵抗を改めて感じました。

最後に長谷部港北消防署長からの講評の中で近年、線状降水帯による集中豪雨が各地で発生している。たまたま港北区内は被害を免れているが、いつ災害があるかわからない。大規模な風水害に対応できるよう訓練をすることが大切であるとお話がありました。今後も全分団での風水害訓練が実施されると思います。

訓練を重ね消防団員としてしっかり活動できるようにと実感した一日でした。



『港北の消防』第70号 編集後記

今年度は港北消防団、各分団の夏季訓練会、各地域の防災訓練、行事、イベントが行われ、コロナ禍前の状態に戻っております。編集委員も新メンバーになり、今回で2回目の「港北の消防」の発刊になり、今後も各分団の訓練会、行事、イベント等を紹介して参りたいと思います。（加藤 英美）

【第23期】編集委員

【本部】鈴木 基祥（編集顧問）
【本部】廣井 徳栄（編集委員長）

【第一分団】加藤 英美
【第二分団】新井 武仁
【第三分団】小泉 守
【第四分団】鈴木 勝博

【第五分団】莊山 敦
【第六分団】手塚 進一
【第七分団】中山 政光
【第八分団】畑野 悦子

団員募集広告



レッツ消防団！

あなたのチカラを消防団に！！



港北消防団では、一緒に活動する仲間を随時募集しています！大地震や自然災害などから、あなたの大切な家族や地域を守るため、一緒に活動してみませんか？
普段お忙しい方でも、無理のない範囲でそれぞれのライフスタイルに合わせた活動ができます。
あなたもなれます消防団員！
ぜひ一緒に港北区の安全・安心を守っていきましょう！



港北消防団ウェブサイト



電子申請による入団

【入団条件】

1. 満18歳以上の人（性別・国籍不問）
 2. 区内在住・在勤・在学の人
- ※消防団に入団すると、活動等に応じて年額報酬や活動報酬が支給されます。



若い力で大好きな港北区を守りたくて入団しました！皆さんも私たちと一緒に活動しましょう！

港北の消防

第70号

令和7年1月1日

編集：横浜市港北消防団（港北消防署内）



嶋村団長新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、消防団活動にご協力いただきありがとうございました。

また、団員の皆様におかれましては、日々、地域防災にご尽力いただき、ありがとうございます。近年は、天候が不安定で、日本の季節感が失われたような日々を感じます。特に夏場の暑さが厳しく、熱中症対策が必要な日々が続きました。これは消防活動にも影響する状況としますので、台風、豪雨など自然災害と同様な備えが必要と思います。

消防団活動は、団員の技術向上、知識の習得、地域との情報連携など今後多様な対応が望まれますが、様々な訓練を通じて、団員のスキルアップに努める所存です。本年も、よろしくお願い申し上げます。



「夏季訓練会について」

第八分団 第6班 栗原 柚紀

大学進学を機に消防団に入団し、八分団として礼式訓練や救命講習の指導に出動していました。消防団に所属しながら、今回の夏季訓練会に参加するまでポンプ操法についてあまり詳しくありませんでした。しかし、貴重な経験を積むことができるという八分団団員の助言もあり、参加を決めました。

夏季訓練会の練習では、規律ある動きに圧倒されたものの、六分団の先輩団員が優しく教えてくださったこともあり、安心して参加できました。短い練習期間でしたが、動作の確認に何度も付き合っていただいたおかげで、落ち着いて本番に臨めました。先輩団員から熱心で的確な指導をしていただき、とても心強かったです。

有事の際は、こうした普段の活動の積み重ねがあって力を発揮できると信じて、これからも地域のために消防団員として活動していきたいです。



「夏季訓練から出初式まで」

第七分団 第4班 酒川 健

あれほど待ち遠しかった少年時代の短い夏休みは遠い昔・・・近年では、危険な夏の暑さは毎年長期間にわたって厳しくなっています。

今回は団長の計らいによって猛暑を避けるため、夏季訓練会が1か月早まったにもかかわらず、その暑さは昨年にも増した厳しいもので予想の範疇を超えていました。競技としてのポンプ操法ではなくなったのも今期からです。にもかかわらず、当番班の本気の訓練実施内容が炎天下の元さらに燃えていました。

秋を迎えると、あっという間に年末年始特別警戒シーズンとなります。団員数が少なくローテーションに悩む班も少なくないようです。

続けて出初式が待っています。団員のみならずは頑張っています。ほんの少しずつの「消防団員」それぞれの頑張りが地域の安全を自分でも知らず知らずのうちに担っていることを気付く頃には、晩年を迎える年齢となりそうです。



「遠距離送水訓練に参加して」

第二分団 第1班 遠藤 教一

7月13日に篠原西町公園で行われた100ミリホースを活用した遠距離送水訓練に初めて参加しました。当日は朝から晴れて気温も高かったが活動場所は木立の中で日陰があり動きやすかったです。初めての100ミリホースはとても重く感じました。加えて多分岐金具やホースブリッジなどの器材も重量があり運搬に注意が必要だと感じました。訓練が始まりホースの設置に取り掛かりましたが、ホース延長に際し結合金具も特殊な形状で戸惑いながらの作業でした。ホースから注水されると簡易水槽に水が貯まる速度の速さに驚きました。

閉式の消防署長挨拶では、元旦に発生した輪島朝市の大規模火災に触れられ、地震により近くの消火栓が機能しなかった時、100ミリホースの延長送水の重要な必要性を聞きました。万が一の場合を想定してより一層の訓練を通して取り扱いを習熟することの大切さを学びました。



「菊名地区連合町内会自主防災訓練に参加して」

第三分団 本部 小泉 守

令和6年6月13日、菊名コミュニティハウス（菊名4丁目4-1）において、菊名地区連合町内会家庭防災部主催の自主防災訓練が行われました。消防団へ防災指導の要請があり、スタンドパイプ式初期消火器具を用い、消火栓からの放水・消火活動を体験していただきました。参加人員は町会52名、消防団員7名と多くの方が参加しました。開会の挨拶の後、スタンドパイプ等収納されている資機材の各名称、取り扱いの説明、ホース・筒先等の結合の注意点および安全な活動への配慮を説明し、実際の放水活動を行いました。特に消火栓を開ける際の腰への負担・消火栓内への転落防止、ホース等の確実な結合、伝令の仕方、筒先担当者へ放水時・放水停止後の手順等、全ての活動に対しスピードより安全への配慮を優先することを説明しました。参加された連合町内会の皆さんが真剣に訓練に取り組む、また町内会の活動であることもあり、とても楽しそうに訓練していたことが印象的でした。今後も地域からの要請にこたえられるよう消防団員一同研鑽を積んでいきたいと思ひます。



「署、団連携訓練に参加して」

第一分団 本部 加藤 英美

令和6年8月25日（日）港北区新羽町北線訓練場にて災害時の消防署と消防団の円滑な連携活動、消火、救助技術の向上、士気の向上、消防署と消防団の顔の見える関係の構築を目的として行われました。当日は港北消防署、小机消防出張所、港北消防団第一分団と第八分団第1班が参加し、30名ほどで行われました。

訓練想定は建物火災第二出場、一般住宅1棟炎上中で建物内に要救助者1名、小机消防隊と第一分団が連携し消火活動実施、第一分団のドア開放により小机消防隊が内部進入を実施する。第一部は放水訓練で小机消防隊は消火栓から65mmホース1本延長し、双口媒介を設定し、第一分団が各1口を使用し、50mmホース1本延長し、火点に放水し消火する。第二部はエンジンカッター取扱訓練で第一分団がエンジンカッターを使用してドア開放、鉄パイプを切断する。このように震災や火災時は、消防署と消防団の連携が必要で良い訓練ができたと思ひます。



「地域イベント活動への参加」

第四分団 第2班 池谷 誠 第四分団 第1班 浅子 憲利

9月22日（日）アピタテラス横浜綱島店にて【キッズ防災フェア】、10月20日（日）綱島商店街主催【つなしまハロウィンこどもパレード】へ第四分団第1班・第2班並びに第八分団第4班にて対応しました。

【キッズ防災フェア】

当日はあいにくの天気のため、屋外での水消火器体験は実施出来ませんでしたが、屋内イートインスペースにて「親子で防火服着衣体験」、「防火ポスターぬりえ」を行い、ぬりえ会場は満席になるほど数多くの来場者で賑わいました。

同店でのイベントは四、五年前から毎年行っており、過去には来場者の紹介により入団者を獲得出来た印象深いイベントです。

【ハロウィンこどもパレード】

綱島商店街が主催するオータムフェスティバルの一環で、子供達とその親御さん達、合わせて数百名が駅前を行進し、滞りなく行進できるよう交通整理を行いました。今回初めての企画のため、事前に運営メンバーと行進ルート・所要時間の現地確認を行い、当日に備えました。おかげさまで事故無く終了しました。

消防団の役割は、火災や災害時に迅速に対応し、地域の安全を守ることとされていますが、それだけではありません。日ごろから地域イベントに参加し、消防団の活動をアピールすることで地域の防災意識を高め、住民同士のつながりを強める役割も果たしています。引き続き地域イベントへの参加を通し、地域の安全を守る一員として貢献していきたいと思ひます。



「第八分団救命指導者のスキルアップ研修を受講して」

第八分団 第4班 飯田 美香

私は10月5日に港北区役所4階会議室で行われた『第八分団救命指導者のスキルアップ研修』を受講したのですが、この研修の案内を知った時から、とても楽しみにしていました。その理由は、2017年4月より(公益財団法人)東京防災救急協会という組織で救命講習指導員として勤務しているのですが、この研修で得られる様々な知識を活かしたいと願っていたからです。

研修は木村分団長以下22名の団員が受講したのですが、分団長挨拶の次には3つのグループに分かれて、新しく作成されたパワーポイントを使って行われました。

一人10分ずつ受け持って、パワーポイントに記載されている解説を読み上げたり、自分なりの説明を加えて、実際の講習でより良く理解してもらえる方法について検討したりしたので、回数が進むにつれて内容がとてもイメージしやすくなったと感じています。また普段の講習では、それぞれ団員がグループを受け持って指導しているのですが、他の団員が行っている内容を知ることが出来たのも大きな成果でした。

もちろん横浜と東京では、救命講習の内容は同じでも、教材やタイムスケジュール等が違いますが、住民の救命率を高めるといった目的に向かって行動するには変わらないので、これからも港北消防団員として地域の方々と協力しながら進んで参ります。本日の研修に際しまして、開催に向けてご尽力なされた方々に厚く感謝しています。



「日吉台小学校地域防災訓練」

第五分団 本部 莊山 敦

10月20日（日）、くもり、日吉台小学校にて地域防災訓練実施につき参加し、救命指導、水消火器案内など担当。簡易トイレで初見のアイテム発見。研修はもちろん、他エリアの防災訓練や行事やイベントなど消防団活動に従事していると驚くほどの発見があることを実感した。

火災、災害現場などに出場することもあるが、臨機応変な対応が求められる。もちろんマニュアルや基本あってのことだが、想定外の惨事が起きた場合、どうなるのかなどの危機感をもって日々過ごさなければならないと強く思う。

神奈川県エリアの強地震もいつ起きるか分からないので、とにかく「備えあれば憂いなし」だと思ひます。

